

Vol.5

## はじめに

《三好企画の web サイトに掲載されている文は全て著作権法により保護されます。日本語訳の著作権は三好企画が保有しています。掲載されている文の閲覧と印刷には制限なく、研究にご利用ください。ただし、全文をコピーして流用すること、改ざんすることはお断りします。

これは 1931 年の日本社会、世界の航空機、航路についての貴重な記録です。論文の部分引用にあたっては、「出典」として下記をご掲載ください。》

『ジャパン・アドヴァタイザー』The Japan Advertiser 1931 年 10 月 10 日、ジャパン・アドヴァタイザー発行 日本語訳・三好企画 2025 年

アメリカで出版されたアン・モロウ・リンドバーグ著『海からの贈り物』（1955 年）の 70 年目の記念として、まずは一部を公開します。

## 凡例

[ ] 及び\*のある部分は、訳註である。  
原文は英語なので、漢字表記が不明のものはカタカナにした。  
原版はタブロイド判 32 ページ、報道内容が重なった部分があるので一部を割愛した。

## 翻訳協力 順不同、敬称略

リーブ・リンドバーグ 兼子 奈緒美 中川 経子 浅野 正弘

1931年9月7日

## 横浜市長および神奈川県知事、リンドバーグ夫妻と会見

比較的静かな週で目立った東京湾訪問  
9月12日、荒天のため大阪出発は中止

9月6日に軽井沢と日光から戻ってから9月13日に関西に向けて出発するまでの日々は、東京到着後に国を挙げての歓迎が行われた5日間のような一連の公式歓迎行事や接待はなかったものの、リンドバーグ大佐夫妻は忙しく時間に追われる毎日を過ごした。9月7日、夫妻は横浜市を訪れた。9月8日、大佐は主要な新聞社と報道機関を訪れ、YMCAにも立ち寄った。9月9日、大佐は霞ヶ浦を訪れて飛行機の整備を行った。9月10日、大佐は天皇陛下から勲章を授与され、関西行きの準備のため、ふたたび飛行機の整備を行った。9月11日、大佐は合同記者会見に応じた。9月12日、大佐と夫人はともに霞ヶ浦に赴いたが、荒天のため出発を中止した。

横浜訪問でリンドバーグ大佐夫妻は、アメリカからの旅行者のほとんどが、到着して初めて目にする日本の土地を知ることになった。夫妻は神奈川県の上野治郎知事と横浜市の大西一郎市長を表敬訪問し、横浜震災記念館を見学した。スタンダードオイル社とフォード・モーター社にも短時間立ち寄り、その後、東京に戻って、歌舞伎座で上演された演目を鑑賞した。

東京で昼食をすませたのち、リンドバーグ夫妻は、トーマス・克蘭フォード・ジュニア中尉夫妻とともに車で港町横浜に向かい、到着するとまずアメリカ領事館を訪れ、チャールズ・L・デ・ボルト領事および夫人、ウィリアム・F・ネイソン領事の歓待を受けた。夫妻は短い訪問で残念だと言っていたが、領事館を出る前に写真撮影の許可を報道カメラマンに与えた。フラッシュをたいた煙がデ・ボルト氏の執務室に充満したにもかかわらず、夫妻は気さくに何度もポーズをとった。

訪問の噂が広まっていたので、夫妻の姿を見ようと県庁の周囲には群集が集まっていた。デ・ボルト夫妻と克蘭フォード中尉夫妻と一緒にリンドバーグ夫妻は県庁の中に入り、そこで山県知事夫妻と県庁の役人たちに迎えられ、応接室で軽食が出された。一行は県庁の屋上に上り、横浜市のスカイライン〔空を背景にした建物のシルエット〕を眺めた。山県知事夫妻は名所を指差して説明し、知事が港湾計画の一部を説明したときには、大佐はいくつも質問をした。

デ・ボルト氏は、海岸通りに建設中の新しい領事館に一同の注意を向けさせた。一行が屋上を離れる前に、再び写真撮影が行われた。リンドバーグ夫妻は知事と夫人と並んでポーズをとった。

神奈川県山県治郎知事は、つぎのような歓迎の辞を述べた。

大西洋単独飛行という大佐の偉業は歴史のページに永遠に残ることでしょう。それにより、アメリカとヨーロッパの友好を深めた重要性は申し上げるまでもありません。その後も南アメリカとメキシコシティへ飛行し、国際理解を促進しました。今回、大佐はリンドバーグ夫人と共にニューヨークから東京に到る先駆的な航路を切り開き、世界の人々の心は畏敬の念にも似た感嘆で溢れています。それゆえ私たちは、大佐とリンドバーグ夫人が東京に滞在する間、お二人を日本国民の客人として歓迎いたします。

先日、大佐はこの極東の国、日出ずる桜の国を訪れることが子供の頃からの念願であったと述べておられました。そして今回の旅により、その念願が叶えられたのです。

しかし、世間はこのたびの偉業を大西洋横断にほぼ匹敵する歴史的な出来事と見なしています。さらに、賞賛の言葉が見つからないほどの偉業である今回の飛行により、日米親善という理想は大きく前進しました。わたしたちは、おふたりを通して日本とアメリカの国民が友愛の握手を交わしたかのように感じています。このように、わたしたちは日本国民として、また国際社会の一員として、おふたりの偉業が二重の意義、つまり、ニューヨークから東京への飛行と日本とアメリカの友好発展という、ふたつの意義をもっていると感じております。しかしながら、わたしたちは大佐を空の王者ではなく、むしろ平和の使者とみなしています。そのような次第で、わたしは大佐とリンドバーグ夫人をお迎えする機会を得てうれしく思い、おふたりの日本滞在がこれまで、そしてこれからもこの上なく満足で楽しいものであるよう願っております。また、わたしたちは、おふたりのご健康と幸運をお祈りし、今後も飛行技術のみならず平和のために貢献なされることをお祈り申し上げます。

夫妻は県庁から車で大西市長の自宅に行き、そこでも横浜訪問に対する歓迎の辞が述べられた。市長はリンドバーグ大佐夫妻に横浜訪問の記念として花瓶を贈呈した。市長宅の芝生の庭では写真撮影が行われた。横浜商工会議所会頭のイサカ氏も一緒に写真に納まった。

大西市長はつぎのような歓迎の辞を述べた。

リンドバーグ大佐夫妻によるニューヨーク東京間太平洋横断飛行は、世界の航空史上、画期的な出来事です。おふたりの成功を喜ばしく思っているのはアメリカ国民だけではなくありません。日本人が、そしてすべての人々がその喜びを分かち合っています。何故なら、リンド

バーク大佐がああ忘れることのできない大西洋と、それに続くメキシコ飛行により航空知識と文化と平和に対する貢献に、おふたりの飛行が寄与し続けているからなのです。

横浜市民の崇拝と尊敬を、市長としてわたしが代表して申し上げるのは、おふたりの過去と現在の功績に対してのみではなく、おふたりが日米の友好を深めた点に対してでもあります。

ともに太平洋に接している日本とアメリカは、ペリー提督がこの岸辺を訪れて以来、70年以上にわたり親密な交流を続けてまいりました。両国の関係は年を追うごとに深まっています。ここ、横浜こそペリー提督が日本の地に初めて足を踏み入れた場所です。それ以来、横浜は国内最大の港として発展し、アメリカ合衆国と特に近い関係を築いてまいりました。現在、そして過去の歴史の観点から考えますと、この港こそ日米関係においてもっとも重要な場所と言えましょう。

世界の交通運輸が海路から空路に次第に移り変わりつつある今日、わたくしども横浜市民はこのたびリンドバーク大佐夫妻を歓迎するにあたり、この上ない歓喜を感じています。

また、わたしたち横浜市民は、友好を深め、そして日米間の和平を維持するために尽くしてくださったふたりの空の大使に感謝を捧げるとともに、アメリカおよび日本の国民がよりいっそうの繁栄を重ねることを祈っております。

大西市長は一行を市長宅の裏手にある震災記念館に案内した。〔1923年の関東大震災に対して、アメリカで「日本を助けよう!」という全面広告が掲載され、アメリカ赤十字を通じて救援物資が届けられ、山下棧橋近くに仮設の病院が設置され、記念館は1945年2廃止された。〕リンドバーク夫妻は記念館で、あの大震災時の建物を眼にし、また地震によって引き起こされた大混乱と苦しみがどのようなものであったか、真に迫る説明を受けた。

夫妻はスタンダードオイル社の新社屋で、ジョン・グールド氏をはじめとする社の経営幹部と面会した。夫妻は今回の飛行にあたってスタンダードオイル社より受けた援助に対する感謝を述べた。また、夫妻はフォード・モーター社の広大な工場を訪れ、支店長補佐 S・T・シェーベルイ氏が一行を工場に案内し、製造工程の説明を行った。

4時30分、リンドバーク大佐夫妻および克蘭フォード中尉夫妻は東京へと出発した。6時少し過ぎに一行は歌舞伎座に到着した。松竹の大谷社長の招待によるものである。

9月8日、リンドバーク大佐は東京の新聞社と報道機関を次々と非公式に訪問した。また、神田のキリスト教青年会も訪れた。

リンドバーク大佐はトーマス・G・克蘭フォード・ジュニア中尉と共に、短時間ではあるが、ジャパンアドバタイザー社を訪れ、今回の訪問中にジャパンアドバタイザー社からリ

ンドバーグ夫人と自分が受けた親切なもてなしと協力に対して感謝の言葉を述べ、また、日本人および外国人社員と握手を交わした。

10時30分、日本電報通信社を訪れたリンドバーグ大佐は光永星郎社長と面会した。大佐は、リンドバーグ夫人と自分が日本政府関係者と日本の人々より受けた援助に対する感謝の気持ちを日本電報から新聞各社に伝えてくれるよう、依頼した。

千島列島で何度か不時着したことで、政府当局から尋問を受けたかどうか質問されると、リンドバーグ大佐は光永氏に、当局はその点については何も言っていないと答えた。

YMCAでは、大佐は建物の設備に非常に興味を持った様子で、自分もアメリカでYMCAの寮に入っていたことがあると言った。ここの設備は非常に素晴らしく、極めて清潔だと感想を述べている。

9月9日、自分の単葉機を点検する為、大佐は車で霞ヶ浦まで出かけた。

飛行場には10時40分に着いた。エンジンの点検を終えると、リンドバーグ大佐は到着した時に取り出した食料、調理道具などの荷物を旅に備えて積み込み、ガソリンとオイルもタンクに注入された。

9月10日、リンドバーグ大佐は天皇陛下より勲三等旭日中勲章を授与された。勲章は逓信大臣小泉又次郎を通して授けられた。9時50分、リンドバーグ大佐はリンドバーグ夫人とアメリカ大使館のエドウィン・L・ネビル参事官と共に逓信省を訪れ、勲章を授かった。大佐は、このような名誉を受けたことを大変喜び、小泉氏に感謝の気持ちを述べた。10時過ぎ、大佐は逓信省を辞した。

大佐はその日の大部分を海軍霞ヶ浦飛行場の格納庫で過ごした。大佐はエンジンを点検し、まったく問題がないことを確認して、夕刻、東京に戻った。

9月11日、日米間の商業飛行便実現の可能性について新聞記者から質問を受けたリンドバーグ大佐は、可能性はあると、これまでと同様の回答を繰り返した。その場合、おそらく今回リンドバーグ大佐夫妻がたどった航路より南よりのルートを採用することになるだろう。そうすれば、アメリカ側では西カナダのマッケンジー川流域の整備が行き届いている飛行場を利用することができる。しかしながら、太平洋上の最適なルートを研究するために、さらなる努力が必要だ。そのためには、少なくとも1年間、气象台で観測を続ける必要がある。ルートが決定されたあとは、正確な気象情報を提供するために气象台と無線局を常設する必要がある。この計画で大きな問題となるのは、組織的な側面である。このように大佐は述べている。

## 比較は時期尚早

太平洋横断商業便には飛行機よりも飛行船のほうがより有利かどうかという質問には、実際の就航後に比較できるようになるまでは、その点については多くを語ることはできない、と大佐は答えた。将来、いつかは商業飛行船が就航するであろうから、その時点で専門家のみが信頼性のある評価を下すことができるだろう。大佐は、この計画は大変興味深いと述べるにとどまり、着陸場として大西洋上に一定の間隔をおいて表面が平らな巨大な海上パイを設置する計画については意見を述べることは差し控えた。

日本人記者のひとりが、日本でもっとも印象に残ったものは何かとリンドバーグ大佐に質問した。自分もリンドバーグ夫人にとっても、「印象深いものは多々あるが、ひとつを選ぶのは難しい」と大佐は答えた。「だが、日光は非常に気に入った。日光のいくつかの場所は、温室の中に入れておくべきだ」と大佐は言った。リンドバーグ夫人も同じ質問を受け、いろいろな場所を訪れて人々と出会い、日本訪問を大変楽しんだと答えた。

リンドバーグ大佐は東京滞在中に霞ヶ浦で自分の単葉機が受けた整備について触れ、日本人整備士を賞賛した。ほかのどんな国でもこれ以上の仕事ぶりは望めないと断言した。特にタンクの亀裂には、かなりの熟練を要した。飛行機はニスで塗装され、フロートの支柱についた凹みは平らに直された。

この出発前の記者会見に出席したのは、UP、AP、ロイター、日本電報、レンゴウ、ニューヨークタイムズ、ロンドンタイムズ、シカゴデイリーニュース、ニューヨークヘラルドトリビューン他の海外新聞各社の記者たちである。会見の終盤、話題が変わり、アメリカでリンドバーグ大佐の今後の計画が知れ渡っている点について、やり取りが行われた。大佐は、次の長距離飛行を計画するときには、まず目的地を公表し、それから数週間待つことにすると言った。その間に新聞社が自分たちに代わって航路の調査を行い、経由する着水地点の情報を収集してくれるだろうから余計な手間が省ける。新聞社はこの夏、大佐が自分で各方面を回って調べる機会を得るかなり前に東京までの航路上の貴重な情報を提供してくれたと話している。

その日の昼、リンドバーグ大佐夫妻はアメリカ大使館付陸軍武官 J・C・マックイルロイ夫妻の品川の自宅で催された昼食会に招待された。その他の招待客は、チャールズ・デボール夫妻、エドウィン・L・ネビル氏、ダドソン・スタンプス大尉、ウィルフリッド・フライシャー夫妻である。

9月12日の朝、リンドバーグ夫妻は8時47分にトイスラー邸を出発し、10時50分に霞ヶ浦の飛行場に到着した。風がやや強く吹いていたが、夫妻は格納庫から単葉機を引き出し、

離水地点に据えた。飛行場で政府関係者らと別れの挨拶をすませた後、大阪に台風が接近中との連絡が入った。天候は回復せず、翌日まで待つことになった。



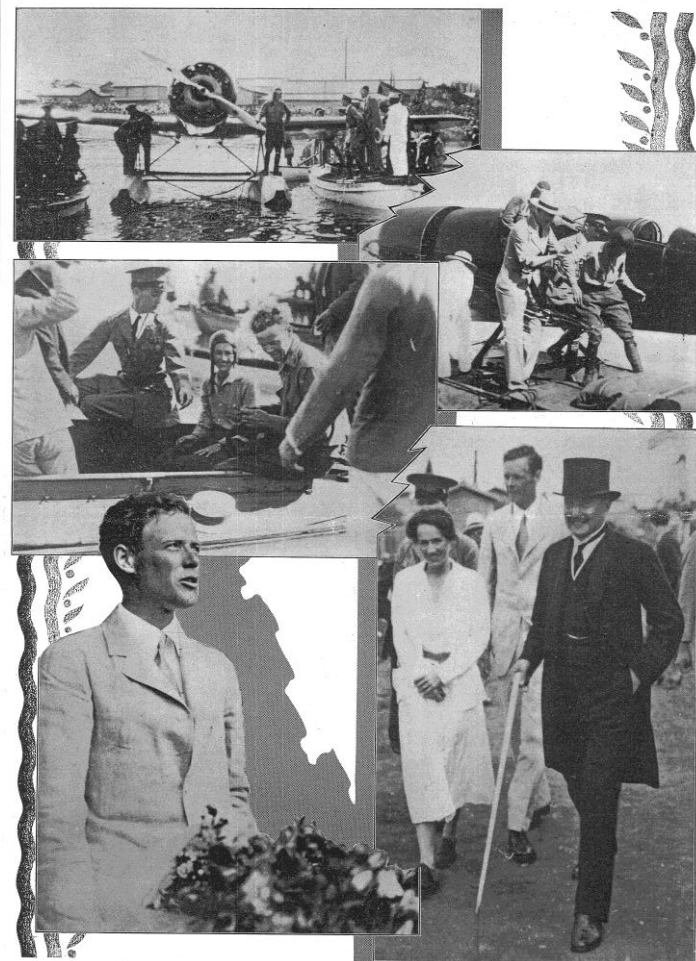
Communications Minister Matsujiro Kozumi presenting Colonel Lindbergh with a decoration granted him by the Emperor in recognition of outstanding service in the cause of aviation. It is the Third Order of the Rising Sun with Medium Cordon.

【写真説明】

航空界における顕著な貢献を天皇陛下に認められた大佐は、小泉又次郎逓信大臣より勲章を授与される。勲三等旭日章である。

THE JAPAN ADVERTISER LINDBERGH EDITION, 1931

25



【写真説明】

左上 根室港で飛行機をブイにつなぐ。

右上 根室で モーターボートに乗り移るリンドバーグ夫人に手を貸す。

中央左 根室で歓迎を受けに岸に向かう。米軍陸軍士官はアレンダー・スイフト大尉。

左下 迎えてくれた根室に感謝するリンドバーグ大佐

右下 根室市長と。

In expressing our good wishes on the occasion of the visit of Colonel and Mrs. Charles A. Lindbergh to Japan we desire also to record the pleasure and satisfaction which have marked the long association of our company with the American people.

We are happy to have had the opportunity of welcoming these two noted fliers to the Land of the Rising Sun, and to wish for them a most successful continuation of their journey around the world.

**SHIMIZU GUMI CO.**  
General Contractors and Builders  
TOKYO, JAPAN.

With great admiration and respect for Colonel and Mrs. Charles A. Lindbergh, the Tokyo Gas Company takes this opportunity in expressing its congratulations to these two famous fliers upon their recent trans-Pacific flight.


It is with the warmest feelings that the Japanese people welcomed Colonel and Mrs. Lindbergh and we fully appreciate the effect this visit will have upon a better understanding and the promotion of goodwill between Japan and America.

**TOKYO GAS COMPANY**  
Tokyo, Japan

左上 清水組の広告 右上 東京ガスの広告 下 ミキモトの広告

With the greatest admiration and respect for Colonel and Mrs. Charles A. Lindbergh, we take this opportunity to extend our warmest congratulations upon their recent trans-Pacific flight.

By Warrant of Appointment  
to Their Majesties  
of Japan



**MIKIMOTO**  
Tokyo, Japan.  
—Genuine Pearls Cultivated—